

酪農宮崎

令和4年4月30日 印刷
令和4年5月1日 発行

編集人:立山 行広
発行所:宮崎市霧島1丁目1番地1
宮崎県経済農業協同組合連合会
電話(0985)31-2100
<http://www.kei.mz-ja.or.jp/>
印刷所:宮崎市大字赤江字飛江田931
宮崎紙工印刷株式会社
電話(代)78-2324

みやざき産牛乳をみんなで飲もう!!
毎月1日は牛乳の日!

NO.606
2022年5月



九州酪農政治連盟協議会、九州酪農青年女性会議、九州ホルスタイン改良協議会による
消費拡大・理解情勢運動

5月号目次

酪農情勢報告	1	牛乳料理／デューリィ牛乳広告	8
ルーツを訪ねて!	2	農学部ナンノ教授のひとりごと	9
技術のページ(牛舎の冷却システム)	3・4	全酪連広告	10
青年女性発表大会	5	全農広告	
九州各団体による消費拡大・理解情勢運動	6		
高原町・小林市総合畜産共進会	7		
酪農川柳	7		



MILK UP!
プロジェクト



経済連HP

酪農情勢報告

1. 生乳生産動向

令和4年4月15日現在

指定団体	3月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
北海道	358,521	103.6	4,135,863	103.2
東 北	44,230	101.0	501,699	99.4
関 東	93,936	100.6	1,050,686	102.6
北 陸	6,453	98.8	73,013	100.9
東 海	28,560	98.5	323,800	100.9
近 畿	13,125	98.9	148,834	102.6
中 国	26,035	99.1	295,035	100.9
四 国	9,458	99.3	106,334	100.1
九 州	54,243	98.5	599,408	100.7
(内、宮崎)	6,416	98.5	70,818	99.4
都府県	276,038	99.7	3,098,810	101.2
合 計	634,559	101.9	7,234,672	102.4

2. 販売状況

令和4年4月15日現在

用 途	区分	3月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
飲用牛乳	全国	254,562	97.7	3,190,074	98.1
	九州	34,543	98.7	422,092	100.3
はっ酵乳等	全国	38,390	97.4	454,098	97.2
	九州	6,950	98.7	84,381	97.7
特定乳製品	全国	190,111	111.0	1,856,972	109.9
	九州	10,084	96.4	63,563	106.4
生クリーム	全国	111,835	98.6	1,298,286	104.2
	九州	2,570	102.6	28,237	103.5
チーズ	全国	39,661	103.8	435,242	105.7
	九州	95	113.3	1,136	105.0
合 計	全国	634,559	101.9	7,234,672	102.4
	九州	54,243	98.5	599,408	100.7

(小数点以下の四捨五入等で合計が一致しないことがあります)

3. 生乳出荷量別生産者戸数 3月

生乳出荷量	戸数
100 t 以上	8 戸
80 t 以上 ～ 100 t 未満	戸
60 t 以上 ～ 80 t 未満	17 戸
40 t 以上 ～ 60 t 未満	21 戸
20 t 以上 ～ 40 t 未満	80 戸
10 t 以上 ～ 20 t 未満	50 戸
10 t 未満	21 戸
合 計	197 戸
最高出荷量	202t/月
平均出荷量	33t/月

4. トピックス

本県の令和3年度生乳出荷実績数量72,504 t

令和3年度の生乳生産量が確定しました。本県の生乳生産量は、72,504 t (前年比99.4%)の実績となりました。数字的には、前年を下回っておりますが、ご存じのとおり、県内の大型農家2戸が複数先出荷を始めており、その大型2農場を除くと、前年比101.6%となり、2年連続前年を超えております。乳製品が積み増しされている中ではありますが、本県の生乳生産量の確保に努めていただき、酪農家の皆様の頑張りに感謝申し上げます。

その他、九州ブロックの生産量は、599千t (同100.7%)、都府県が3,099千t (同101.2%)、北海道が4,136千トンt (同103.2%)となりました。これまで北海道が増加傾向、都府県では右肩下がりで推移しておりましたが、昨年に引き続き都府県の生産量が前年を維持する結果となりました。しかしながら、全国の生産量に対する北海道の割合は57.2%となり、昨年度よりさらに増加し、ますます北海道が伸ばしていることが伺えました。

※都府県、北海道の数量には公共施設分等は含んでおりません。

令和3年度の生乳生産は好調を維持しておりましたが、昨年からの配合飼料高騰に加え、燃料・資材等も軒並み上昇し、厳しい酪農経営を強いられている中、今年度もさらに配合飼料価格等が高騰すると見込まれております。ロシアのウクライナ侵攻の影響による情勢不安、中国での牛肉・豚肉の消費量増による飼料輸入量の増加による逼迫、海上・陸上の輸送賃上昇が重なり、7月～9月期は、配合飼料トン当たり9,000円超の値上げが見込まれると予測する業者もあります。このような状況では、酪農家の経営努力だけではどうにもならず、配合飼料の給与量を落とす→乳量の減少→収入の減→更なる経営逼迫といった悪循環を招きかねません。酪農家の廃業が加速化する懸念もあります。酪農家を守るにはもう乳価を上げるしか方法はないのではないのでしょうか？幸か不幸か、九販連は令和4年度の乳価交渉は決着しておりません。継続協議であります。酪農家を守る、酪農基盤を維持するためには乳価値上げしか考えられません。政府も蔓延防止等重点措置を適用する考えがありませんので、乳価交渉に向けた活動も行えます。九販連にしっかりと要望して、酪政連などの関係機関と連携を図り、乳価値上げを勝ち取れるよう九販連の乳価交渉を後押ししていきたいです。一部では大規模な酪農理解醸成活動を行うなどの案もありますので、皆様の後押しもお願いいたします。

一繰り返すその努力があなたの自信、あなたの儲けですー

酪農課 今井 弘高

ルーツを訪ねて！「老牧夫回想録」より（高橋照次著）

（21）酪農課税対策に努力した二十年

酪農経営における課税対策は、酪農所得の画龍点睛的な大きな意義を持つことは言うまでもない。国税当局に言わせれば、生乳売上げと葉煙草代金は把握の最も容易な双璧だと言う。それだけに私は酪農課税対策には霧島酪連当時から二十年間に亘って熊本国税局と南九州四県の交渉の中心的役割を担って来た。福岡国税局では今は故人となった福岡県酪連の鎌田大九郎君、熊本国税局では宮崎県酪連の高橋が会議に出ている時は注意しろと局内で言い伝えられる程、危険分子扱をされたらしい。

所得税は直ちに市町村税、国民健康保険税の所得割に連動しているので眞険にならざるを得ない。

最近個人となられた山之口町の下西元町長が十数年前に、山之口町酪農の総会に来賓として出席され、「皆さんに税金を拂っていただくのは有難いが、酪農の皆さんはもっと節税について研究する必要があるのではないか。」と挨拶の中で述べられたことがあった。流石に下西林業社長と云う経済人の町長さんと感心させられたことがあったが、この頃からはもう白色申告では如何に国税局とやり合っても限度があるので、下西町長の目にも、農家の中で酪農家の税金が目立ったのではなかろうか。国税局も奨める青色申告に切り替える以外にないと考えて、酪連・農協の組織を挙げて青色申告指導させた。

九 引退

常勤託員として四期、十二年が五十六年五月で終わる。そろそろ自らの去就について腹をきめるべき時期に来ていると考えるようになったのは六十七才になった五十五年の十二月である。

執念を燃やした暖地酪農最大の弱点の是正、即ち乳質改善向上対策も略々できた。産業として最低の単位と考えて来た十万屯の生乳生産と百億円以上の粗収入も、五十四年度から生産調整で、出荷乳量では十万屯を多少切ったが、自家用を合わせれば十万屯は確実に生産している。乳代と乳用牛個体売り上げを加えたら百二十億円になるだろう。

三十五年前、馬産に替る酪農をと情熱を燃やしたものだだったが、酪農だけではまだ三万頭で、僅かに一、二〇〇戸程に減ってしまったが、肉用牛と、草を食べない豚・採卵鶏・ブロイラー等に分散されて、いつの間にか馬は影をひそめてしまった。

四十五年から始めた乳牛改良供給事業や四十八年から始めた牡犢育成事業は毎年赤字で、五十四年度末を以ってこの事業に終止符を打つことに決定したとき、責任を明らかにするため進退伺を提出したが慰留されて来た。一方四十八年以来副理事長として再建を委託された酪農公社は、赤字解消には程遠いが、施設の集約と粗飼料自給対策は公共牧野整備事業で概成され、県酪農公社への組織替えも認められて今後県の多角的援助を受けられる見通しもついたが、反面場長以下尠からざる人員整理を断行せざるを得なかった道義的責任は免れ得ない。

酪農家戸数の減少とともに酪連自らの機構縮小や人員整理の必要も生ずるであろう。

或は最近における配合飼料のシェア拡大をめぐる組織間の軋轢や誤解等、ひたむきな情熱を失なわしめるような事象もなしとしない。個人的には、自家酪農経営に於いて、孫達が幼いため、六十の坂を超えて猶早朝から搾乳労務に従事せざるを得ない老妻の健康状態を考えれば、一日も速やかに牛舎労務から解放してやらなければならない。また、急速に規模拡大をして来た息子の酪農経営は稍々不健全であり、経済的にも労力的にも援助の手を差し伸べる必要がありそうだ。多病にして且つ体力衰へて来たこの身も今ならまだ二～三年は畜舎労働には多少の援助は可能だろう。特に乳質改善を酪農家の皆さんに要求して来た立場からも、高橋牧場の牛舎と搾乳牛管理は模範的でなければならない。

牛舎冷却施設を用いた乳牛の暑熱対策

畜産試験場 須崎 哲也

はじめに

乳牛は暑さに非常に弱く、近年の地球温暖化の影響は深刻なものとなっています。暑熱ストレスは乳量の減少や繁殖性の低下など様々な悪影響を及ぼすことが知られており、暑熱期の生産性低下は酪農経営において大きな問題となっています。そこで牛舎冷却施設を用い、暑熱ストレス軽減効果について検証しました。

材料と方法

牛舎冷却には放射式冷房除湿システムを用いた。このシステムは冷却フィンの中に冷水を通すことで冷房と除湿が行える装置です(図1)。既存牛舎(W1,800cm,L360cm,H290cm)を合板(12mm幅)とポリカネートで囲い、天井部全面に冷却フィンを設置し、牛房は単管パイプで5部屋(1部屋約13㎡)に区分けしました。乳牛を冷却牛舎と対照牛舎(開放牛舎)で交互に飼養し調査を行いました。

結果

乳牛は暑熱ストレスを感じると横臥をやめ、立ち上がることで体内から熱を放射します。牛は横臥状態で反芻することで飼料の消化を促すため、牛をストレスなく横臥させ、反芻させることが乳量の増加につながります。写真は昨年9月上旬の冷却牛舎内の様子です。外気温が30℃を超える時間帯でしたが、乳牛は横臥し反芻していました。牛舎内の温度が牛の姿勢に及ぼす影響を調べたところ、25℃を下回ると横臥状態が顕著に高くなることがわかりました(図2:青色の部分が横臥している割合)。乳牛の暑熱ストレスの程度をTHI(温湿度指数)で判定することはよく知られています。冷却牛舎と対照牛舎のTHIを乳牛のストレスの基準で色分けしたところ、対照牛舎のTHIは非常に強いストレスの数値内(82-92)に入る時間帯が多かったのに対し、冷却牛舎のTHIは強いストレスの数値内(72-81)で推移しました。またTHIの日内変動も対照牛舎では大きく、乳牛がより強い暑熱ストレスにさらされていたことがわかりました(図3)。

今回の調査で、放射式冷房除湿システムを用いると、牛舎のような大空間でもTHIを下げることで、乳牛の暑熱ストレス軽減に一定の効果があることがわかりました。

※放射式冷房除湿システムは乗馬施設や養豚施設で導入実績があります。

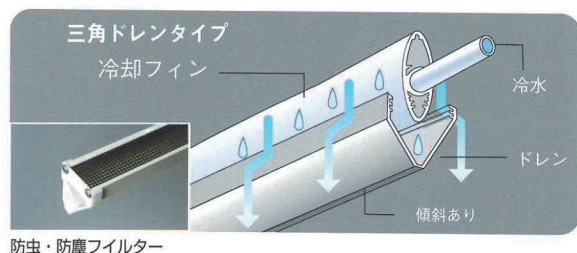


図1 冷却フィンの概要

出典: (株)ヤザワコーポレーション、アオキ住宅機材販売(株)



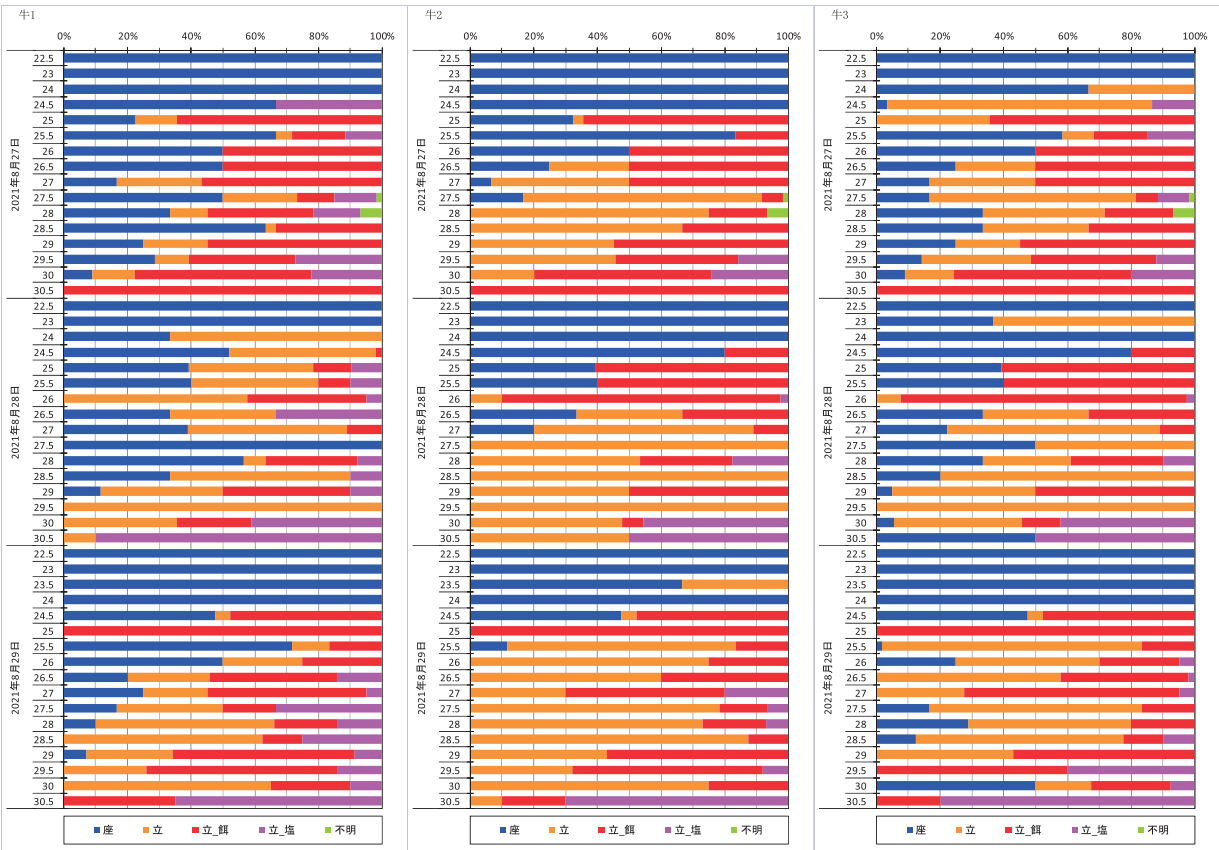


図2 冷却牛舎内温度別の姿勢割合

出典: (株)ヤザワコーポレーション、アオキ住宅機材販売(株)

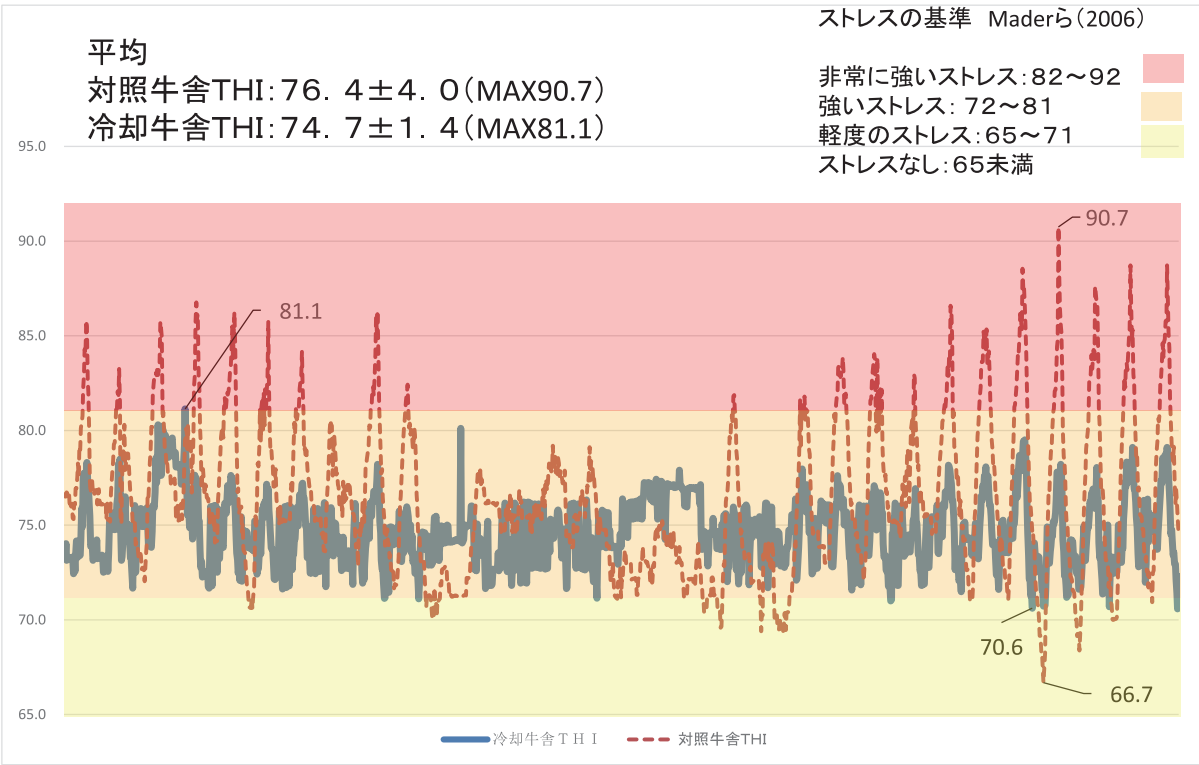


図3 牛舎内THI推移(R3.8.1-31)

第45回 宮崎県酪農青年女性酪農発表大会

J A 宮崎経済連 酪農課 赤星 梨月

令和4年3月22日(火) J A・A Z M大研修室(宮崎市)にて、酪農家・関係機関約50名が参加し、第45回 宮崎県酪農青年女性酪農発表大会を開催しました。経営発表の部の発表となり、宮崎中央・県北地域代表の松浦美知子さん(児湯農協)が「地域と共に進む酪農」というテーマで発表されました。



経営発表の部 「地域と共に進む酪農」

昭和45年に夫博俊さんが15頭規模で酪農経営をスタートし、平成12年に乳牛60頭まで拡大されましたが、平成22年の口蹄疫発生により全頭が殺処分となりました。口蹄疫の翌年、初妊牛30頭を北海道より導入をし再スタートされました。平成24年には新築の牛舎と堆肥処理施設を建て、老朽化したパイプラインを一新してキャリロボを導入、作業効率を向上させ作業負担軽減と労働時間の短縮をはかりました。

しかし、再スタートから6年が過ぎたころ、一気に牛を導入した反動で牛群が高齢化し、全体的に体細胞の高い牛が増え、経営を圧迫していきました。このままではいけないという思いが芽生え、経験に頼った経営からデータを活用した経営にシフトしました。

経営改善への取り組みとして、毎月の牛群検定とバルク乳検査のデータを用いて、農家、獣医、飼料設計士の3者で牛群を見るようにしました。結果、繁殖成績については、分娩後初回受精平均日数は15日間、受胎までに要した平均授精回数は0.8回、平均空胎日数は56日間の短縮化に成功しました。

地域の酪農家と肥育農家にはそれぞれ課題があり、酪農家の課題としては、夏場の人工授精による受胎率は20%を下回っていたため、夏場の受胎率向上を目的として、チルド卵の受精卵移植を始めました。これによって、受胎率が40%程まで向上しました。

一方、肥育農家では地元産の肥育素牛が不足しており、優秀な肥育素牛を安定的に確保したいという問題を抱えていました。そのような中で、お互いの所得向上を目指して、平成28年に「児湯農協酪農受精卵協議会」を発足させました。この協議会では地域の関係機関がチームを組み、同期化・採卵・移植をしています。受精卵移植で生まれた子牛は地元の児湯畜連の「酪農家と牛E T スモール牛セリ市」に上場しています。実績は、若干相場に左右されるものの、売却価格や上場頭数、出荷体重は増加傾向であり、評判が広まり販売先は県内外にも及んでおります。協議会の取り組みが認められ、令和3年度の第64回宮崎日日新聞農業技術賞を受賞しました。

約2年前より牧場体験を開始し、今では累計300人の方にご来場いただきました。松浦牧場の牧場体験では、「命の循環」「牧場を食卓へ」の想いを伝えたく、活動しています。

現在、牛舎の稼働率が80%程度で、年間平均95%を目指します。このために手狭になってきた子牛牛舎、育成舎、乾乳牛舎を新築し、牛には過ごし易い環境、人には働きやすい環境を作っていきます。その他にも、J G A Pの取得、教育ファームとしての認知度向上、法人化と同時に夫博俊さんから息子千博さんへの事業継承を、2年後を視野に準備していきます。地域と共に進んでいく松浦牧場は酪農の現場と消費者の皆様を繋ぐ架け橋としてこれからも進化を続けていきます。



九州各団体による消費拡大・理解情勢活動について

令和4年3月26日に福岡三越 ライオン広場にて九州各県の代表が集まり、消費拡大が行われました。

宮崎県からは宮崎県酪農青年女性連絡協議会大山会長、宮崎県乳用牛改良同志会谷口会長が参加されました。

搾乳体験やサンプリング、トークショーが催され、最大限コロナに配慮しながらも約30名の農家とスタッフが集まり、一般消費者に牛乳の消費拡大を呼びかけました。

サンプリングではLL牛乳と理解醸成のチラシを約3,000人へ配布し、その場で牛乳を飲まれる方もいらっしゃいました。

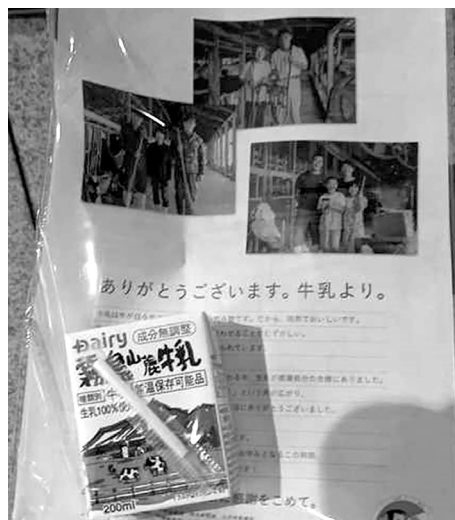
トークショーでは九州酪政連中村会長、大山会長が生産の現場や情勢について伝えられました。中村会長より、戦争の影響もあり酪農情勢が厳しくなっているが、国内の牛乳を今後供給していくためにも、たくさん消費していただきたいとの話がありました。大山会長からは、酪農家の現場の仕事や、理解醸成の取り組みなどが伝えられました。

クイズコーナーもあり、参加者へ景品としてLL牛乳やマスキングテープが贈呈されました。

また、同日別場所にてふくおか県酪連独自の理解情勢活動も併催されていました。

今回の活動は、昨今の厳しい情勢から、酪農家自らが「何か動かなければいけない!」というご意見が九販連販売員会等で挙がり、九州各団体が団結し形になったとのことでした。

感染症に配慮するため、活動内容が制限された状況ではありましたが、メディアなどにも取り上げていただいたことや、会場で子供からお年寄りまで多くの方々に、体験を通して消費拡大の協力を呼びかけることができました。



↑配布したチラシとLL牛乳



↑谷口会長と柿元会長(鹿児島県同志会)



↑トークショーの様子(大山会長ら)

高原町、小林市の総合畜産共進会の開催について

令和4年4月5日に第45回高原町総合家畜共進会(高原町畜産振興センター)、4月7日に第17回小林市総合畜産共進会(小林地域家畜市場)が開催され、乳牛の部にて審査が行われました。家畜審査はJA宮崎経済連土持主査が行いました。

高原町総合家畜共進会では4部門14頭が出品され、小林市総合畜産共進会では4部門12頭が出品されました。

コロナウイルスの影響により、様々な活動の自粛が続いておりますが、それぞれの地域にて改良が切磋琢磨行われており、すばらしい牛が出品されておりました。



↑小林市総合畜産共進会の様子



↑高原町総合畜産共進会

らくのう川柳

今月号の「らくのう川柳」は、次のとおりです。

みな様の「心の叫び」や「普段の思い」、そして、「こうありたい」が、この川柳の中に詰まっています。

ウィズコロナ ウィズ県産乳で ウィズ元気

「負けないで」さん

飲まれるかわからぬ乳を搾られる 牛の健気さ日々しみる

「カルボナーラとカマンベール」さんより

今年秋 和牛全共 見に行こう

「KING プリン」さんより

かあちゃんが またテレビに 怒っている

「モージェンダー」さんより

飼料アップ 血圧アップ 乳価ダウン

「小林のエレベーターさん」さんより

牛乳料理の紹介

バナナ グリーンティーフラン



延岡工業高等学校 藤崎 由菜

<作り方>

1. ボウルに卵を割り、砂糖、小麦粉を入れ、しっかり混ぜ合わせる。
2. 耐熱ボウルに牛乳と小さじ1の砂糖を入れ、600Wの電子レンジで2分、様子を見ながら加熱する。
3. 温めた牛乳に粉末緑茶を入れ溶けきるまで混ぜ合わせる。
4. 1に3を少しずつ加えながら混ぜる。
5. 耐熱容器に1cm幅に切ったバナナを並べ、4を流し入れ500W～600Wの電子レンジで全体が膨らむまで加熱する。(約4分容器の向きを変えながら)
6. 加熱が終わったら少し冷まして盛り付けをし、粉糖を上からふりかけミントを上から飾る。



<ポイント>

- 誰でも簡単に美味しく作れるよう手間のかからないようにした。
- 延岡産の粉末緑茶を使用して地産地消を意識した。

<材料4人分の分量>

- ・牛乳 400ml
- ・卵 3個
- ・バナナ 2本
- ・粉末緑茶 10g
- ・小麦粉 大さじ4
- ・砂糖 大さじ3
- ・粉糖 適量
- ・砂糖(牛乳に入れる用) 小さじ1
- ・ミント 適量

dairy 南日本酪農協同株式会社

ミルクでつなぐ明日の笑顔



農学部 ナンノ教授のひとりごと

羊をめぐる冒険

南野 快

東北のI大学に在籍していた10数年前、同僚のイタリア人教員であるM氏から、「羊の調査をしたいので農家と獣医を紹介してほしい」と頼まれた。当初私は北海道各地の羊牧場や担当獣医師と連絡を取り、日程を調整する手伝いだけをやっていて、その日程に従ってM氏は一人でレンタカーに乗って北海道を回っていたのだが、ある日、スピード違反で免許停止になってしまったとのことで、「車しか移動手段はないので北海道に来て一緒に回ってくれないか」ということになった。かくして僕とM氏による羊を探す旅が始まった。全道の羊農家をめぐりアンケートを取り、一頭一頭から血液サンプルを取った。それなりに苦労したが農家さんと獣医師の協力のお蔭で予定通りの調査を終えることができ、M氏も満足したようであった。

訪問した農家で飼養している羊の多くは肉用で、中には羊毛用もいたが一軒だけ、羊乳を生産し、市販する農家があった。欧米では山羊のミルクは一般的で街のスーパーでも普通に売られているが、私の海外出張や海外での滞在経験において羊乳を見た記憶はなく、私はその時北海道で初めてだったが意外にクセはなく、美味しく飲むことができた。成分としては牛乳と比べると脂肪とタンパクが多いことから海外ではチーズやヨーグルトなどの加工用として搾乳されるのが一般的である。

ところで、国内での羊の飼養頭数は1950年代には100万頭近くいたらしいが今は約1万6千頭、頭数別世界ランキングでは151位(2020年)と決して多くはなく、日本ではマイナーな家畜である。しかし海外の多くの国では重要な家畜であり、例えばスコットランドの山間部をドライブすると至るところで羊の群れを目にする。英国全体では約3,400万頭、世界第10位である。ちなみに羊の頭数世界一は中国で、1億7,300万頭以上を飼養しているとのこと。人口あたりの頭数だとニュージーランドが世界一で人口の5倍以上の頭数(約2670万頭)がいる。

羊料理と言えば日本ではジンギスカンが有名であ

る。モンゴルのチンギス・カンに由来するという説があり、確かにモンゴルで肉料理といえば羊が中心であるが、日本のジンギスカンは実際のモンゴル料理とはかなり異なる。ジンギスカンは北海道を代表する料理の一つであるが、北海道で消費する羊肉の多くはオーストラリアとニュージーランドからの輸入肉である。

夜に寝付けない時に羊を数える風習の発祥は英語圏で、sheep(シープ)とsleep(スリープ)の発音が似ていたからだといわれている。確かに、one sheep, two sheep…と数えやすくりズムが良い(しかも複数形もsheep)。これが日本語だと「羊がいつびき、羊がにひき、羊がさんびき…」と、数えやすいとは言い難い(しかも匹の読み方が数字によって異なる)。だが、日本でも子供を寝かし付ける時の定番になっている。我が家でもかつて娘が幼児の時に数えさせたら、34匹で眠りについたことを今でも憶えている。



麦芽を乾燥させる際の燃料にピート(泥炭)の代わりに羊の糞(シープダンク)を使用して作られたシングルモルトウイスキー。木材資源に乏しいアイスランドならではの一品である。

初乳粉末製品

GOOD START PREMIUM

グッドスタート プレミアム 内容量 250g/袋

免疫グロブリン
70g/袋以上
含有



和牛
にも!



Your Partner 全酪連

全酪連 福岡支所 南九州事務所

フレーク&ペレット

➤ 乳配M

- CP 17.0%・TDN 72.0%
- ハイキューブ、綿実を多く配合したミックスタイプ



➤ デイリーアップ74

- CP 17.0%・TDN 74.5%
- ベーシックな搾乳牛用配合飼料



➤ 乳ブレンド18

- CP 18.0%・TDN 74.5%
- 綿実・ビートパルプを多く配合



マッシュタイプ

➤ デイリープレミアムM

- CP 17.0%・TDN 74.5%
- バイパス蛋白配合
- ビタミン・ミネラル強化



➤ パワーSマッシュ

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- シンプルな内容で低コストを実現

